



1月に学校を訪問すると多くの学校の廊下に、こどもたちの「書き初め」作品が掲示されています。1、2年生は硬筆、3年生以上は毛筆を使って、丁寧に整った文字を書いています。この行事は、全員が参加するので、俳句を作る題材として取り組みやすいものになります。

『書き初め』は、四音なので、同じ意味で『筆始め』『初硯』という五音の季語の紹介もして、「五七五」にまとめやすくしました。また、『書き初め』に『お』を付けて丁寧に『お書き初め』という表現もあることを伝えました。『歳時記』の中には、『お書き初め』を季語としないものもありますが、著名な俳人の作品に下記のように『お書き初め』を季語にした句もあるので、こどもたちにもOKとしました。



『入りきらぬ末の一字やお書き初め』 (辻 桃子)

『墨痕(ぼっこん)のかすれに力お書き初め』 (鷹羽 狩行)

こどもたちに、書き初めをするときに使う道具は？、どんな場所で書いた？、体勢・姿勢は？等と問いかけながら、思い起こさせていきます。「体育館○○○○○○筆始め」「だるま筆○○○○○○筆始め」「正座して○○○○○○筆始め」などを参考に俳句を作りました。鉛筆で書いた低学年、毛筆で書いた高学年、様々ですが、いくつか紹介します。

『鉛筆の4B使ってお書き初め』 『消しゴムは使っちゃだめだよお書き初め』

『手の横にえんぴつかすつくお書き初め』

『ばあちゃんちばあちゃん先生お書き初め』

『妹に半紙を踏まれ筆始め』

『お書き初め穂先をそろえ月と書く』

『筆始め最後の一画息止めて』

町を歩くと、「春」を感じることがあります。まだまだ、寒い日もありますが、こどもたちが卒業、進級する日が、確実に近づいてきていることを実感します。

